

# 親子で行こう！ 友達で行こう！ さあ！体験しよう！

海水浴・キャンプファイヤー・昆虫採集…楽しい夏の思い出。  
定山溪自然の村でできる楽しいこんな体験はいかがですか。

▲定山溪自然の村 風の広場(左)とふれあいハウス(右)

春夏秋  
四季を通して

体験しよう！

市内中心部から車を走らせ定山溪温泉街を過ぎ、豊平峡ダムに向かう交差点を左折して三分。

ここは、一年を通して利用できる北海道内では数少ないキャンプ場「定山溪自然の村」です。

定山溪自然の村は、札幌市の水がめの一つである豊平峡ダムに近い支笏洞爺国立公園内にあり、敷地内には、ウグイスやヤマセミなど野鳥の名前がついたコテージ、アンドロメダやペルセウスなど星座の名前がついた常設のテントハウス、テントサイトがあり、宿泊はもちろん日帰りでも利用できます。

## ▼定番のキャンプファイヤー



ここでは、四季を通して施設利用者を対象とした自然と触れ合う体験プログラムが充実しており、ハイキングや登山、星空観測会、キャンプファイヤーなどがあります。また、冬期間も、雪で巨大なスクリーンを作り上映する「雪の中の映画会」、かんじきやスノーシューを履いての森林探索なども用意されています。

そして、ここならではのプログラムは「森作り体験会」です。と言っても植樹や植林ではありません。

自然の村の中には今から約四十年前に植林されたアカエゾマツがあり、それらを太く真つすぐに育てるための間伐作業を体験プログラムとして通年行っています。

取材をしたこの日は、四組の親子十五人(大人八人、子ども七人)が挑戦。使用する道具は、おのやのこぎり、ロープと指導員手作りの皮むき棒の四種類です。

指導員から作業手順の説明を受け、早速森の中へ。四組それぞれ木を選び、第一段階は作業のしやすいようにおの

下枝を払います。子どもたちは、初めて使うおのの力加減が難しかったようです。



▲のこぎりに悪戦苦闘

続いて第二段階、のこぎりで木の根元を切り始めると、ギーコギーコ、トリズミカルな音の親子と、ギツギツ、と苦戦している親子が…。

それでも、みんなで倒す方向に力をこめて木を押ししています。やがて木が傾き始め、



「倒れるぞー」と口々に叫び、そしてすぐに「やったー」と言う歓声が変わ

りました。

第三段階は倒れた木にロープを結び、

みんなで協力して作業のしやすい広い場所に運びます。第四段階



▲次は僕の番だよ